

JR東日本におけるDXを活用した地方活性化施策について

2022年4月4日 第6回デジタル田園都市国家構想実現会議
東日本旅客鉄道株式会社 取締役会長 富田哲郎

地方交通のDX



- ▶ Suicaの共通基盤化
- ▶ オンデマンド交通
- ▶ CBM...

観光のDX



- ▶ MaaS
- ▶ ワークেশョン
- ▶ 農業...

生活のDX



- ▶ JRE MALL
- ▶ 医療・教育
- ▶ デジタルステーション...



Suica

Tabi=CONNECT



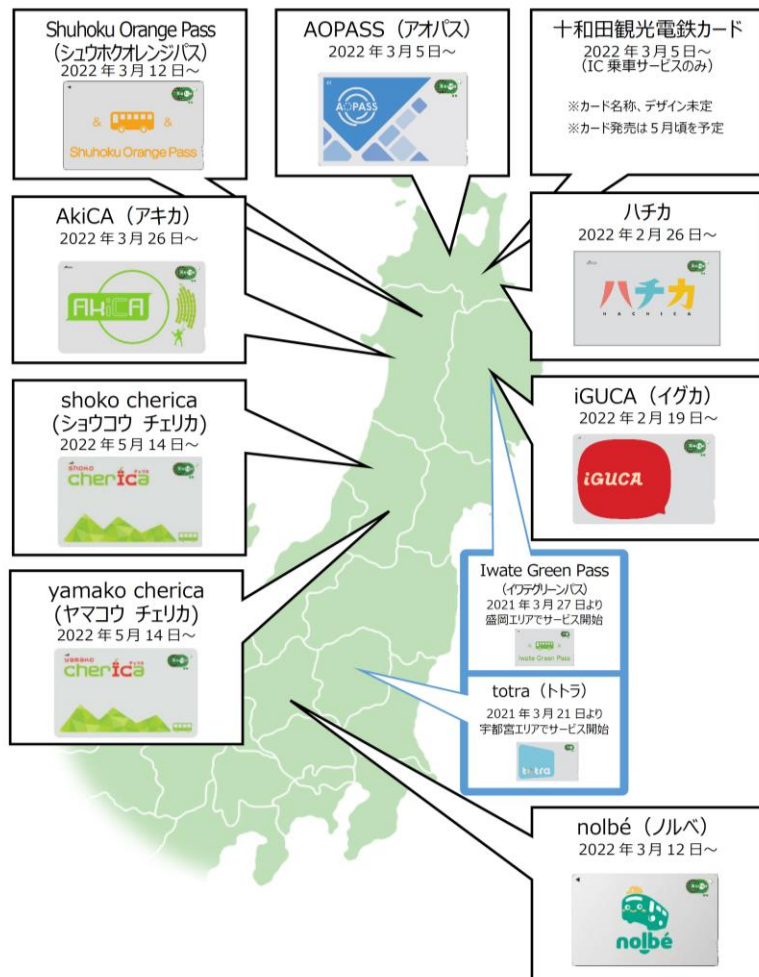
JRE POINT

デジタル基盤

デジタルを基盤とした
暮らしやすいまちづくり、稼げる産業づくりをとおして
地域経済の活性化に貢献する

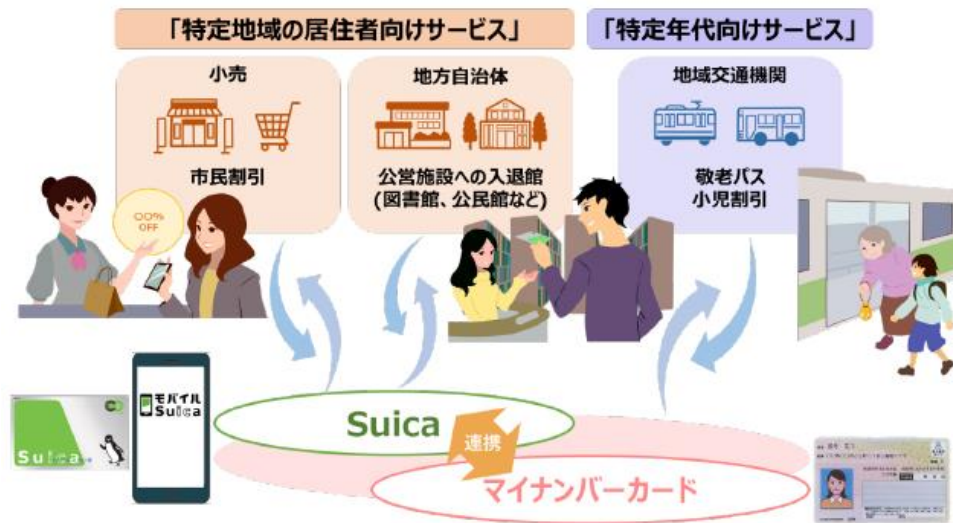
■ 地域連携ICカード

- ▶ 地域交通の独自サービスとSuicaのサービスが1枚で利用可能
- ▶ 地域交通事業者のIC乗車券導入を推進



■ マイナンバーカードとの連携

- ▶ 群馬県前橋市が展開する「MaeMaaS」
- ▶ Suicaの認証機能とマイナンバーカードを連携することで、Suicaでマイナンバーカード所有者向けの特典を受けることが可能に



地方交通のDX シームレスに移動できる社会に

■ オンデマンド交通

- ▶ 地域における観光・生活の足となるべくオンデマンド交通を展開
- ▶ デジタル化で効率的な配車が可能に



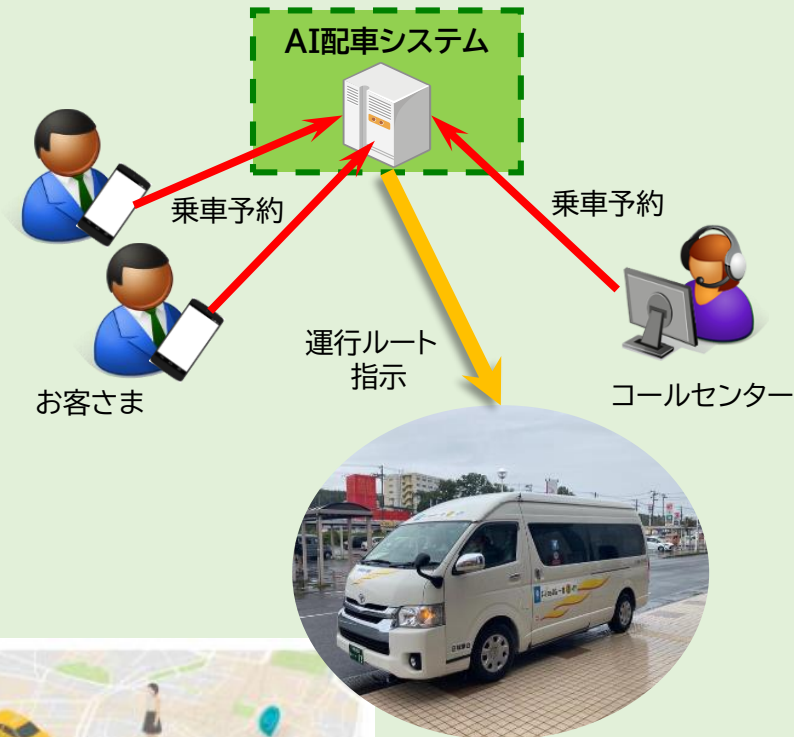
AI配車を活用し、オンデマンド交通をフルデマンド化
(2021年10月1日～ 継続運行中)



西武HDとの協業による運行
(2022年1月15日～3月31日)



当社として初となる自治体との共同運行
(2022年5月17日運行開始)



1. デマンドに応じて車両が走行



2. 異なるデマンドが発生



3. リアルタイムにルート最適化

(左) AIによる配車イメージ

出典: ㈱未来シェア ウェブサイト

地方交通のDX 最新技術を活用した輸送システムへの再設計

■ BRT (Bus Rapid Transit)

- ▶ 線路敷を活用した専用道を整備
- ▶ 専用道では渋滞や交差点での信号待ちがなく、安定した運行が可能
- ▶ 気仙沼線BRTにおいて自動運転の実証実験を実施



■ CBM (Condition Based Maintenance) の推進

- ▶ 設備の状態に応じた最適なタイミングでのメンテナンスが可能に



【SMART-i】
新幹線線路設備モニタリング
装置を搭載した専用保守用車

■ 水素ハイブリッド電車「HYBARI」

- ▶ 脱炭素化を目指し、水素を燃料とする燃料電池と蓄電池を併用するハイブリッド車両で、実証実験を実施
- ▶ 2030年頃の実用化を目指す



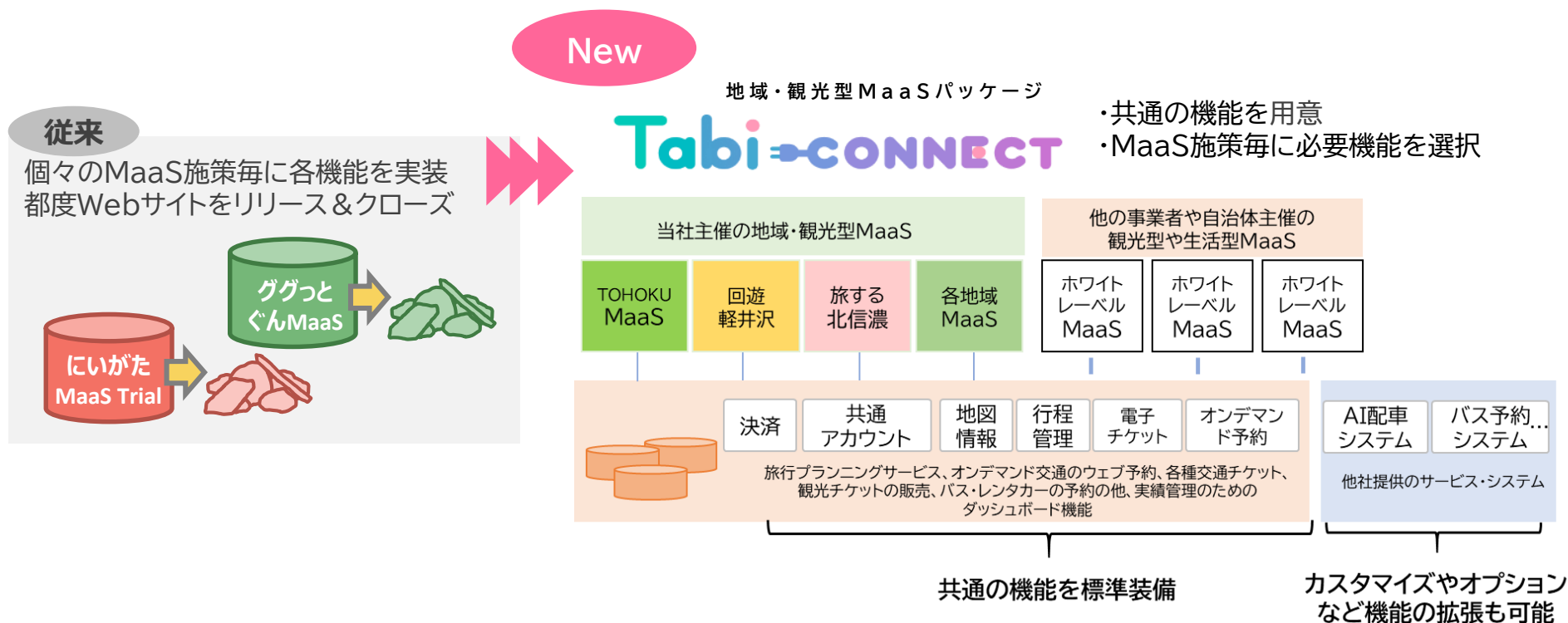
■ 山手線自動運転

- ▶ E235系車両を使用した走行試験を実施
- ▶ 2025～30年頃に自動列車運転装置の導入を目指す



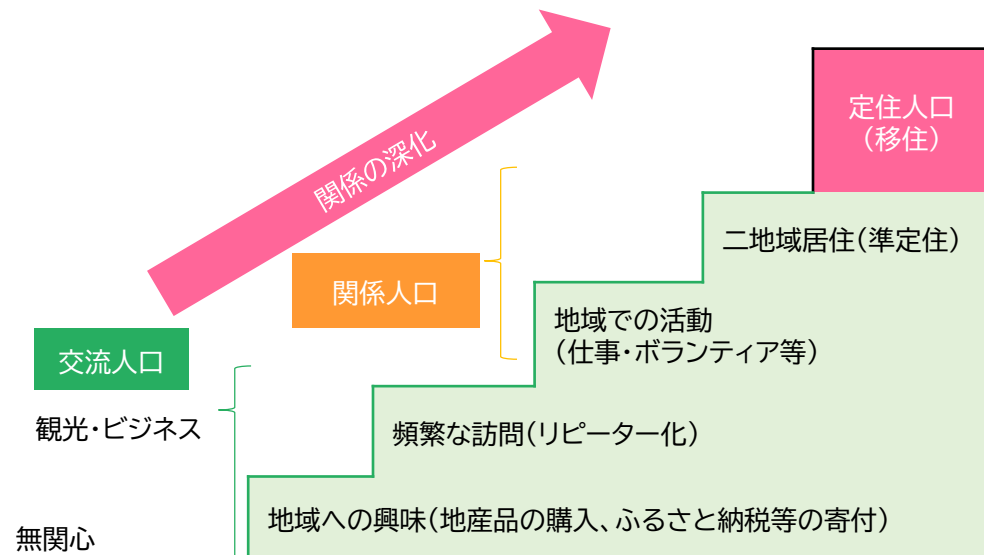
■ MaaSの展開

- ▶ 地域・観光型MaaSのノウハウや機能をパッケージ化したプラットフォーム「Tabi-CONNECT」を活用
- ▶ 観光のお客さまの利便性向上、観光事業者の生産性向上、地域住民の日々の生活にも便利な移動サービスを提供



■ ワークーション

- ▶ コロナ禍による働き方の変化
- ▶ ウェルビーイングの実現
- ▶ 農業ボランティア、移住・多拠点居住促進を通じた、交流人口・関係人口・定住人口の拡大を目指す



■ 農業

- ▶ 「JRとまとランドいわきファーム」(福島県)では、コンピュータにより温度や湿度の管理、水や肥料の供給を制御



- ▶ 「JRフルーツパークあらはま」(宮城県)では農研機構と連携し、技術を導入することで作業効率向上を図る



【農作業支援ロボット台車】
ロボット台車に枝回収モジュールや除草剤散布モジュールをセットすることで、作業時間が5割削減

■ JRE MALL

JRE MALL

- ▶ JRならではの商品や地産品、ふるさと納税などのラインナップを展開

■ エキトマチケット

- ▶ 1枚500円の電子チケット
- ▶ 地域のキャッシュレス化を促進



■ はこビュン

- ▶ 新幹線をはじめとする列車の速達性・定時制を活用した荷物輸送サービス



■ JRE農業ステーション

- ▶ ITを活用した農産物の流通活性化を図る

地方駅の農産物集荷場
JRE農業ステーション



列車を活用した輸送



農業総合研究所の物流ネットワーク

消費者

■ サテライトオフィスの整備

- ▶ 多様化するライフスタイルや新たな働き方に対応した拠点づくり
- ▶ 「STATION WORK」は都心、東北信越等の駅のほか、行政や郵便局など全国に500カ所以上で稼働中



(左)秋田空港に設置されたステーションブース
(右)長野駅直結のレンタルオフィス

- ▶ 燕三条駅(新潟県)では駅構内の一部をサテライトオフィスとして改修予定(デジタル田園都市国家構想推進交付金の採択事業)

■ 駅カルテ

- ▶ 毎月のSuicaの利用データを統計化し、JR東日本の首都圏を中心とした約600駅の各駅のご利用状況を示すレポート
- ▶ まちづくりや地域活性化等に、Suicaの統計情報を活用していただくことを目指す



レポートイメージ

生活のDX 駅を地域の情報拠点化(デジタルステーション)

□ Beyond Stations構想

■ スマート健康ステーション

- ▶ 2022年4月に西国分寺駅に「スマート健康ステーション」開業
- ▶ 対面とオンラインのハイブリッド診療
- ▶ どこにいても医療を受けられるくらしの実現を目指す



■ まちづくり

- ▶ 各地で自治体と一体となり、駅を中心としたまちづくりを推進



青森駅では、健康増進の機能を備えたウェルネスホテルを整備(2024年度開業予定)

■ JRE Stationカレッジ

- ▶ リアルとオンラインによる実践的な学びの場を提供する「JRE Stationカレッジ」
- ▶ 課題発掘型のリーダー人材を育成し、駅からサステナブルビジネスを生み出す
- ▶ 2021年9月に東京駅に開校(エコテック)
- ▶ 2022年10月に新大久保駅に開校(フードテック)予定



■ 郵便局と駅との機能連携

- ▶ 無人駅となっていた千葉県内房線江見駅において、郵便局における駅窓口業務の一体的な運営を2020年8月から実施



地域と一緒に

■ 地域を共創する組織の設置

▶ 地域を本走者として、当社グループの総合力でサポートする(伴走型地域づくり)

自律的・持続的な地域づくり

JR東日本のリソース

輸送サービス



生活サービス



IT・Suicaサービス



地域のプレイヤー

自治体



教育



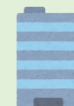
医療



銀行



企業



交通



■ 組織横断PT

- ▶ 異なる職場に勤務する社員がチームを組み、職種を越えて沿線地域の課題を解決し新たな価値を創造
- ▶ お客さまや地元のより近くで創意を発揮

【北信濃MaaS PT】

- ・2020年10月に発足
- ・駅や乗務員、設備系など系統を越えたメンバーで活動
- ・善光寺御開帳にあわせMaaSを展開



旅する北信濃

にひかれて善光寺御開帳

地方活性化に取り組むことができる仕組みづくり

- ▶ 自治体が描く将来像を実現するため、産官学一体となって投資すべき
- ▶ 投資を促すには、インセンティブが必要
- ▶ 国が整備し、民間が運営するコンセッションの推進
- ▶ 地域の特色を生かしたボトムアップ型のDXを

